



研究紀要発刊にあたって

胆振教育研究所長 土井 嘉 啓
(登別市立若草小学校長)

各学校においては、来年度(中学校は再来年度)から全面実施される新学習指導要領の理念の実現に向けて取組を進めているところと思います。特に、教育の質の向上を目指す上で、学習指導要領の改訂に応える「授業改善」を重要視し、教師主導の「教え」から児童生徒主体の「学び」への転換に向けて実践を重ねているところと思います。

昨年4月17日に文部科学大臣から中教審に諮問された「新しい時代の初等中等教育の在り方について」には、知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」と教科教育等を評価する一方、子どもたちの語彙力や読解力の課題が指摘され、諮問内容の一つに、「義務教育、とりわけ小学校において、基礎的読解力などの基盤的な学力の確実な定着に向けた方策」が取り上げられています。このようなことから、主体的・対話的で深い学びの具現が形式的な授業展開にならないように、そして、学力の確実な定着に結び付いていくように、授業改善が図られることが必要です。

「学習指導要領解説 総則編」の「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」において、その方向性や留意することなどが記載されています。例えば、「これまで地道に取り組み蓄積されてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入するものではないこと」、「主体的・対話的で深い学びは、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通して進めていくことが重要であること」、「学びの深まりの鍵となるのが『見方・考え方』であること」、「基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、その確実な習得を図ることを重視すること。例えば高度な社会課題の解決だけを目指したり、そのための討論や対話といった学習活動を行ったりすることのみが主体的・対話的で深い学びではないこと」、などです。

私たちは、これらのことを踏まえ、子どもたちに必要な資質・能力を育むための学びの質に着目し、授業改善の取組を活性化していく視点として「主体的・対話的で深い学び」を位置づけていかなければなりません。そのためにも、本研究紀要が、各学校において、校内研修をはじめ先生方の授業改善の参考資料としてご活用いただければ幸いです。

終わりになりますが、本研究の推進にあたり、ご指導とご協力をいただきました胆振教育局をはじめ、各市町教育委員会並びに各市町教育研究会の皆様には深く感謝申し上げます。研究紀要発刊にあたっての挨拶といたします。

もくじ

「研究紀要の発刊にあたって」

胆振教育研究所長 土井嘉啓

I 研究の構想

- 1 研究主題 1
- 2 研究主題設定の理由 1
- 3 研究内容 2
- 4 研究の全体構造 2

II 研究内容

- 1 学びの質を高める主体的・対話的で深い学びの具体的な実践について 3
 - ・育成を目指す資質・能力 3
 - ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」 4
 - ・主体的・対話的で深い学びとは 5
 - ・明日からできる主体的・対話的で深い学びの授業実践 8
- 2 主体的・対話的で深い学びに向けたカリキュラム・マネジメントについて 18
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指したカリキュラム・デザインの活用 19
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した内外リソースの活用 23
- 3 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組について (Q&A形式) 24

III 今後の方向性

- ・今年度の研究を振り返って 27
- ・資料 各教科等の「見方・考え方」一覧 28
- ・参考資料一覧、研究・執筆 30
- ・あとがき 31

I 研究の構想

1 研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり

2 研究主題設定の理由

(1) 教育改革の動向より

情報化やグローバル化といった急激な社会的変化の中では、子どもたちに持続可能な社会の創り手となるために必要な力を確実に備えさせることが、これからの学校教育に求められています。

平成29年に告示された新学習指導要領では、これまでの学校教育の蓄積を生かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指しています。そのため、全ての教科等の目標及び内容を、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理されました。

このような資質・能力を育むためには、学びの量とともに、質や深まりが重要であり、子どもたちが「どのように学ぶか」という主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が重要であるという視点のもと総則にも規定されました。

私たち教員は、改訂の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められます。

(2) 学校現場の声から

平成28年度の本教育研究所の調査課題研究「アクティブ・ラーニングの取組アンケート」から、次のような課題が見られることがわかりました。

《課題として見られること》

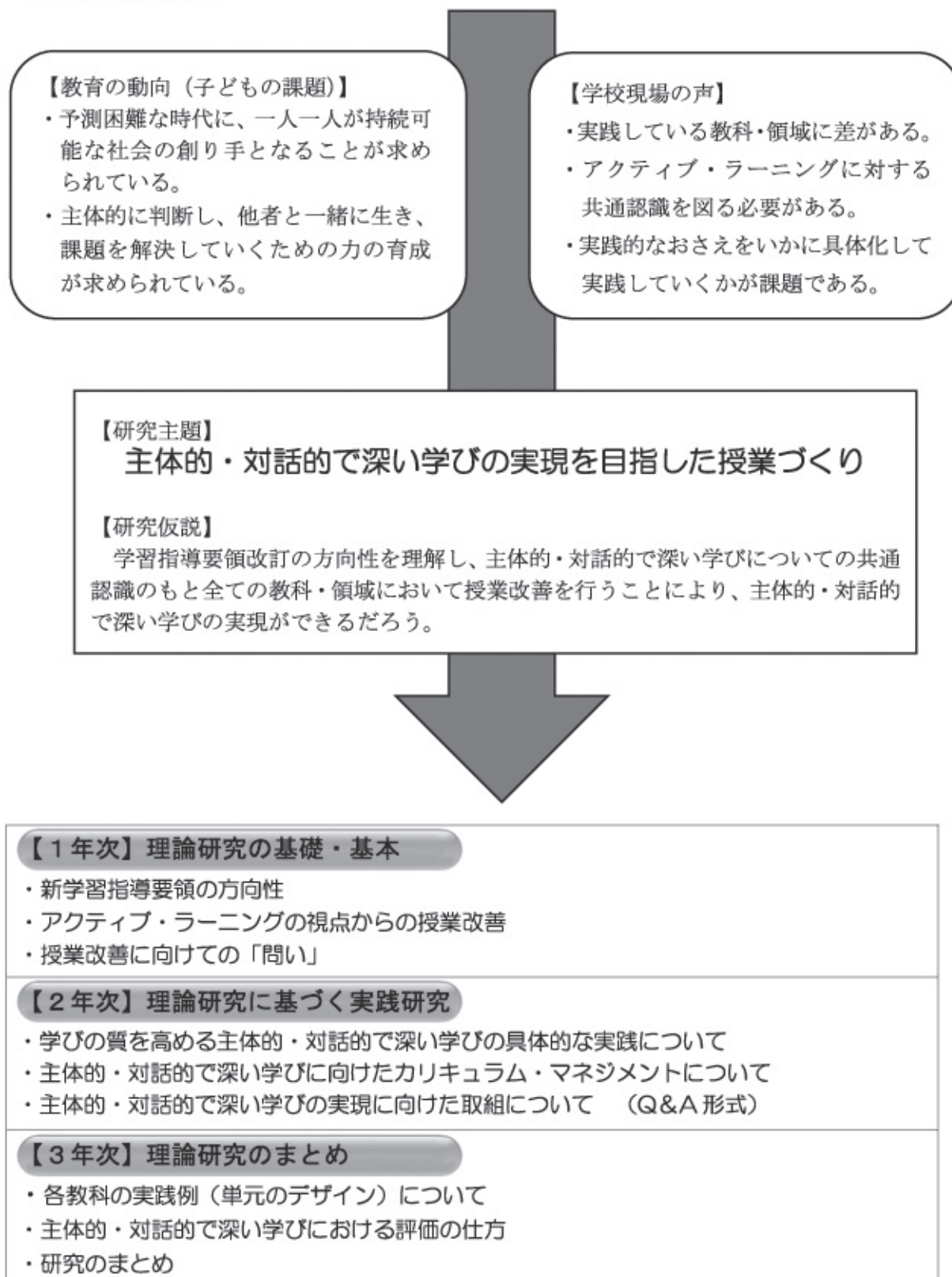
- 実践している教科・領域に差があること。
- 教員間や学校間でアクティブ・ラーニングに対する共通認識を図ること。
- アクティブ・ラーニングの実践的なおさえを具体化して実践していくこと。

胆振管内の小・中学校が、どの教科・領域においても主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を推進するにあたり、先進的な実践や各学校での具体的な取組を交え、研究を深めていくことが大切だと考えます。

3 研究内容

- (1) 学びの質を高める主体的・対話的で深い学びの具体的な実践について
- (2) 主体的・対話的で深い学びに向けたカリキュラム・マネジメントについて
- (3) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組について (Q&A形式)

4 研究の全体構造



Ⅱ 研究内容

1 学びの質を高める主体的・対話的で深い学びの具体的な実践について

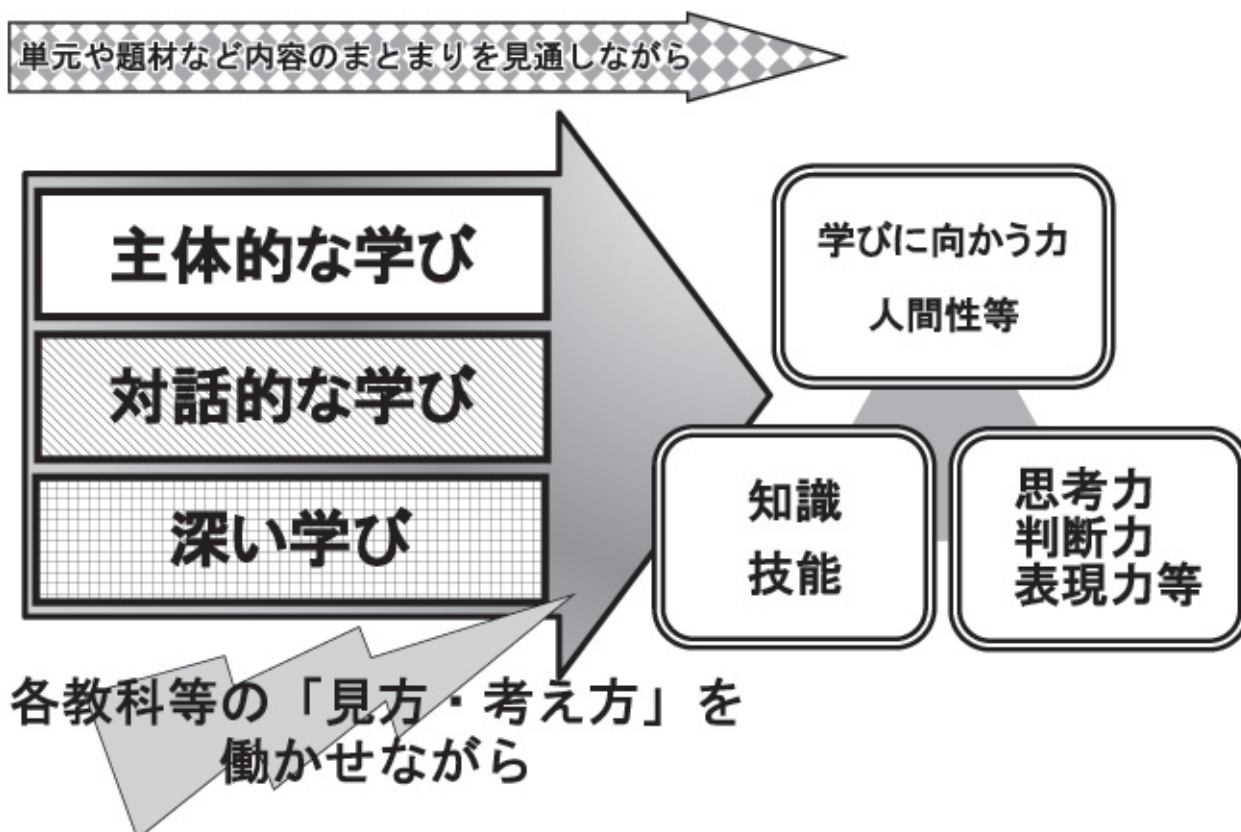
◆育成を目指す資質・能力

新学習指導要領総則では、育成を目指す資質・能力として、

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること

の3点が示されており、これらが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと、その際、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、各教科等の学習の過程を重視して充実を図ることを示しています。

つまり、主体的・対話的で深い学びとは、授業改善の視点であり、目指すべきは、資質・能力の育成なのです。



◆各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

各教科の学びの「深まり」の鍵となるのが「見方・考え方」です。この「見方・考え方」を働かせることによって資質・能力が育まれます。すなわち、「見方・考え方」は育まれる資質・能力そのものではなく、各教科等の学びを通じて子どもたちが「働かせる」ものです。各教科等の「見方・考え方」に今一度着目し、授業づくりに生かしていただければと思います。

＜各教科等の「見方・考え方」の一例＞

※巻末の資料のページに全ての各教科等の「見方・考え方」を掲載しています。






教科等	見方・考え方	
国語 「言葉による 見方・考え方」	<p>【小・中学校】</p> <p>自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。</p>	
社会 「社会的な 見方・考え方」	<p>【小学校】</p> <p>＜社会的事象の見方・考え方＞</p> <p>社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。</p>	<p>【中学校】</p> <p>＜社会的事象の地理的な見方・考え方（地理的分野）＞</p> <p>社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。</p> <p>＜社会的事象の歴史的な見方・考え方（歴史的分野）＞</p> <p>社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差違などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること。</p> <p>＜現代社会の見方・考え方（公民的分野）＞</p> <p>社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。</p>

◆主体的・対話的で深い学びとは

平成28年の中央教育審議会答申では、「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、以下の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯に渡って能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることであると示されています。








【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。

 <p>主体的な学び 興味や関心を高める</p>	 <p>主体的な学び 見通しを持つ</p>	 <p>主体的な学び 振り返って次へつなげる</p>
 <p>主体的な学び 自分と結び付ける</p>	 <p>主体的な学び 粘り強く取り組む</p>	

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。

 <p>対話的な学び 多様な情報を収集する</p>	 <p>対話的な学び 思考を表現に置き換える</p>	 <p>対話的な学び 互いの考えを比較する</p>
 <p>対話的な学び 多様な手段で説明する</p>	 <p>対話的な学び 先哲の考えを手がかりとする</p>	 <p>対話的な学び 共に考えを創り上げる</p>
 <p>対話的な学び 協働して課題解決する</p>		

【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせながら、**知識を相互に関連付けてより深く理解**したり、情報を精査して**考えを形成**したり、問題を見いだして**解決策を考え**たり、思いや考えを基に**創造**したりする。

 思考して 問い続ける	 知識・技能を 習得する	 知識や技能を 概念化する
 知識・技能を 活用する	 自分の思いや考 えと結び付ける	 新たなものを 創り上げる
 自分の考えを 形成する		

子どもたちが、各教科等の学びの過程の中で、身に付けた資質・能力の三つの柱を活用・発揮しながら物事を捉え思考することを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていくことが重要です。教師にはこの中で、教える場面と、子どもたちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し、関連させながら指導していくことが求められています。

本研究では以上の内容を踏まえ、授業における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点を生かした具体的な実践例を示していきます。また、実現したい子どもの姿をより分かりやすく表現するため、独立行政法人教職員支援機構の研修プランシリーズより「主体的・対話的で深い学びの3つの視点を養う：研修プランA4」の「実現したい子どもの姿カード」を参考として掲載させていただきます。

実現したい子供の姿カード

<p>主体的な学び</p>  <p>興味や関心を 高める</p>	<p>主体的な学び</p>  <p>見通しを持つ</p>
<p>主体的な学び</p>  <p>自分と 結び付ける</p>	<p>主体的な学び</p>  <p>粘り強く 取り組む</p>
<p>主体的な学び</p>  <p>振り返って 次へつなげる</p>	<p>対話的な学び</p>  <p>互いの考えを 比較する</p>
<p>対話的な学び</p>  <p>多様な情報を 収集する</p>	<p>対話的な学び</p>  <p>思考を表現に 置き換える</p>
<p>対話的な学び</p>  <p>多様な手段で 説明する</p>	<p>対話的な学び</p>  <p>先哲の考えを 手がかりとする</p>
<p>対話的な学び</p>  <p>共に考えを 創り上げる</p>	<p>対話的な学び</p>  <p>協働して 課題解決する</p>
<p>深い学び</p>  <p>思考して 問い続ける</p>	<p>深い学び</p>  <p>知識・技能を 習得する</p>
<p>深い学び</p>  <p>知識・技能を 活用する</p>	<p>深い学び</p>  <p>自分の思いや考 えと結び付ける</p>
<p>深い学び</p>  <p>知識や技能を 概念化する</p>	<p>深い学び</p>  <p>自分の考えを 形成する</p>
<p>深い学び</p>  <p>新たなものを 創り上げる</p>	

◆明日からできる主体的・対話的で深い学びの授業実践

<主体的な学びについて>

主体的な学び



興味や関心を 高める

・解決の必要感もてる課題の設定

子どもたちが、「やりたい」「学びたい」と思える課題の設定をすることが重要です。そのために、目的意識や相手意識をもたせることも興味や関心を高めるために有効な手立てとなります。

また、身近な生活や社会と関連している課題を設定することも大切な視点となります。

・主体的に向き合えるような問題や課題の提示

I C Tを活用したり、体験的な活動を取り入れたりするなど、導入を工夫して解決したいと思えるような問いをもたせることが重要です。



白老町立萩野小学校

4年生 国語科「一つの花」

「6年生にデジタル絵本をプレゼントして歴史の学習に生かしてもらおう」という言語活動を設定し、学習に対して目的意識をもたせています。



壮瞥町立壮瞥小学校

紙芝居を用いた算数科の授業の導入。題意をつかみやすくするとともに、子どもたちを引きつけています。



登別市立緑陽中学校

I C Tを活用した道徳科の授業の導入。視覚的に資料を提示することにより、主体的に学習に向かわせる工夫をしています。

主体的な学び



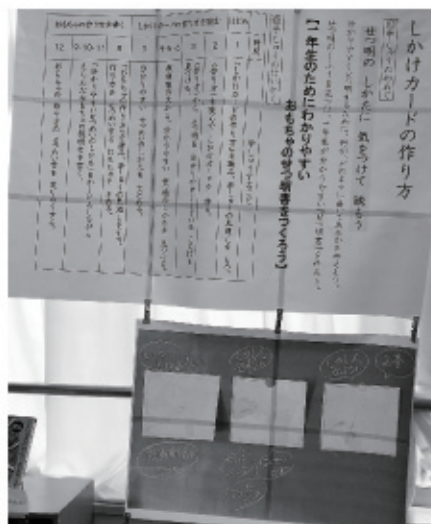
見通しを持つ

・単元の学習過程や育成する資質・能力の明確化

子どもが学習の目的を理解し、そこで学習する内容を身に付けたいと思えるようにする工夫が必要です。何を学習するための活動かを理解することにより、その必要性を自覚しながら学習ができるようになります。そのため、単元計画の掲示など、単元の学習の流れやゴールを見える化し、子どもと共有しながら学習を進めることが大切です。また、単に目標を示すだけではなく、子どもが単位時間や単元の学習で何を学ぶのか、さらにどのような解決方法があるのかなどを見通すことができるように子どもの思考に寄り添い、目標の質を高めることが重要です。

・課題解決のプロセスの確認

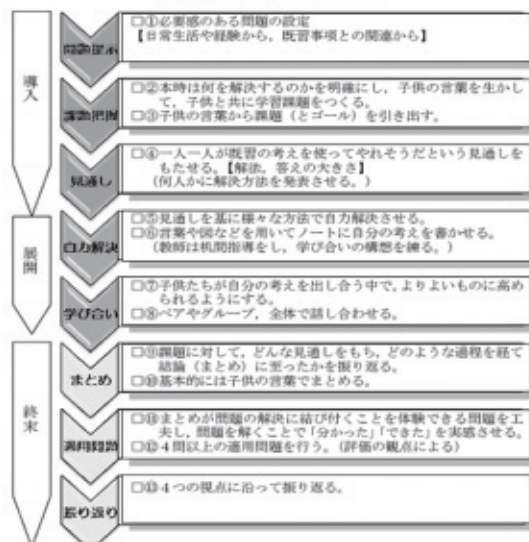
課題と活用させたい既習知識との相違を確認し、「見方・考え方」を働かせて課題解決の予想を立てさせることが必要です。また、活用する「知識・技能」を明確にすることが重要です。



伊達市立伊達西小学校

2年「説明のしかたに気をつけて読もう」
単元計画やゴールの姿の掲示をしています。

算数科における学習過程



白老町立白老小学校

算数科の学習過程を全校で統一し、子どもと教師で共通理解を図って学習に取り組む工夫をしています。

・「見通し」のポイント

北海道教育庁学校教育局義務教育課作成の「平成28年度 小学校教育課程編成の手引」には「見通し」のポイントとして、「『見通し』では、単元や授業のはじめに、児童の側に立った学習課題を必ず示し、この時間に何が分かるようになればよいのか、何ができるようになればよいのか、どのような手順で学習（解決）するのかなどの見通しを立てることが大切です。」とあります。

主体的な学び



自分と 結び付ける

・自分ごととして考えることのできる課題の設定

課題が自分ごととして考えられるよう、発問や学習過程の工夫をすることが大切です。子どもの疑問をもとに課題を作り上げる場面を設定できるとよいでしょう。

・学んだことをフィードバックする場の設定

単元の終末には、学んだことを自分で意味付ける場を設定し、自分と結び付けて考えることが主体的な学びにつながります。

<対話的な学びについて>

対話的な学び



共に考えを 創り上げる

・協働して解決する価値や意義のある課題の提示

複数の視点や根拠をもとに思考・判断・表現できる課題を提示することが大切です。

・自分たちで選択した既習知識や方法を活用した課題解決

思考を可視化しながら、考えをまとめる場を設定するとよいでしょう。また、互いの考えの相違を確認し合い、課題に対する結論を練り上げることも重要です。

主体的な学び



粘り強く 取り組む

・課題解決に向けた学習過程の工夫

考えをもつ、話し合う等、課題解決に向けた学習活動の時間や場を確保することが大切です。スモールステップの学習過程を設定し、達成感を得ながら課題解決に取り組めるようにするとよいでしょう。

・互いに認め合う関係性の構築

成果だけでなく、学習活動の過程も肯定的評価を行うことが大切です。互いの努力を称賛し合える場を設定し、互いに認め合える関係性を構築していきましょう。



洞爺湖町立虹田小学校

アクティブ・ラーニングの視点における話し合い活動
をしています。

対話的な学び



先哲の考えを 手がかりとする

・先哲の考えの共通理解

本を通して作者との対話を行うなどの活動を通し、先哲の具体的な考えを学級全体で共有することも対話的な学びにつながります。

・先哲の考えの活用

多様な資料に記された先哲の考えをもとに、自分の考えを形成できるようにすることが大切です。先哲の考えを活用する際には、その目的と視点を子どもたちに明確に示すことが重要です。

対話的な学び



互いの考えを 比較する

・考えの根拠や思考過程の可視化

思考を可視化する学習シートを用いて、自分の考えの根拠や理由を示すことで互いの考えをより比較しやすくなります。右のような思考スキルを活用することも手立てとなります。

・視点を明確にした話合いの場の設定

考えの分類・比較・関係付け等の思考スキルを活用します。ネームプレートやホワイトボードを活用した構造的な板書で、子どもたちの考えを可視化することでより効果的な学びになります。

対話的な学び



思考を表現に 置き換える

・根拠をもとにした考えの構築

考えを構築する過程や考えの根拠等を構造的に示すことができる学習シートを活用して思考を表現に置き換えることで、対話が深まっていくでしょう。

・互いの考えを確認する場の設定

視点を意識した比較・検討を通して、考えの共通点や相違点を確認する場をもつことが重要です。結論に至るまでの思考過程について、お互いに意見交換をしたり、確かめ合ったりする活動を行うとよいでしょう。

＜思考スキルの参考例＞

思考スキル	シンキングツール	活用例
比較する ＜ベン図＞		物語の比較(国語) 権力の比較(国語) 人物の比較(国語) 互いの読み方の比較(国語) 文字や図形の比較(国語・算数・図工) 2つの市の比較(社会)
分類する ＜Xチャート＞ ＜Yチャート＞ ＜KJ法＞		初読の感想(国語) 登場人物の行動分析(国語) おみせやさんごっこ(国語) 図形の種類(算数) 地域の特徴をとらえる(社会) 調査活動のデータの整理(社会・総合)
多面的に みる ＜ボーン図＞		討論(国語・社会・総合) フィールドワーク後に自分の感じたこと調べたことをまとめる(生活・社会) 地域のよさについての考えをまとめる。(社会) 観察記録をつける(生活・理科) 適宜の楽しさを伝える(学校行事)
関連づける ＜EJ>セフトマップ		ある事象に関する概念をまとめる(理科・社会) 地域探検の後、自分が地域についてどのような見方・考え方をしているのかをまとめる。(総合)
構造化する ＜自覚的シート＞ ＜ヒラキッドチャート＞		自分の考えを説明する(国語、社会) 説明文の読解(国語) 筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。(国語) テーマに対する自分の考えをまとめる(総合) 学習目標を考える。(学芸) 条件から解決法を導き出す(算数)
評価する ＜評価板書＞		俳句や作文の評価(国語) 学年集会(学芸) 行事のふりかえり(特活) 学年保護者会(学校行事)

田村 学著 「思考ツール＜実践編＞」より

対話的な学び



協働して 課題解決する

・一人一人が自分の考えをもつ場の設定
自分の考えをもつために学習シートやノート等を書き表します。その際に、考えをもてない子どもへの具体的な手立てを準備することも必要です。

・互いの考えを聞き合える集団の構築

協働して課題解決するためには、受容的な人間関係を形成することが重要です。そのためにも聞くことのマナーやスキルの定着を図る必要があります。



厚真町立厚南中学校

音楽科 ペアでの鑑賞

各教科において、生徒にとって必然性のある「対話的な学び」を設定しています。

対話的な学び



多様な情報を 収集する

・複数の方法による多様な情報の収集

本やインターネット、公的機関や身近な人等、多様な対象・方法で情報を収集します。個々の情報について、発信元も含めて信憑性を吟味することも学習の中で身に付けさせるとよいでしょう。

・多様な情報の処理

収集した情報を学習シート等で観点別に分類します。ワールドカフェやポスターセッション等、多様な情報を聞き合える場を設定することが大切です。



伊達市立伊達西小学校

1年「じどう車くらべ」

言語活動として西小学校のみんなに読んでもらう

「じどう車 すごいぞ ずかん」をつくる活動を設定し、並行読書の場を設けているところ。様々な自動車の図鑑をカラーコピーして、より調べやすくしています。



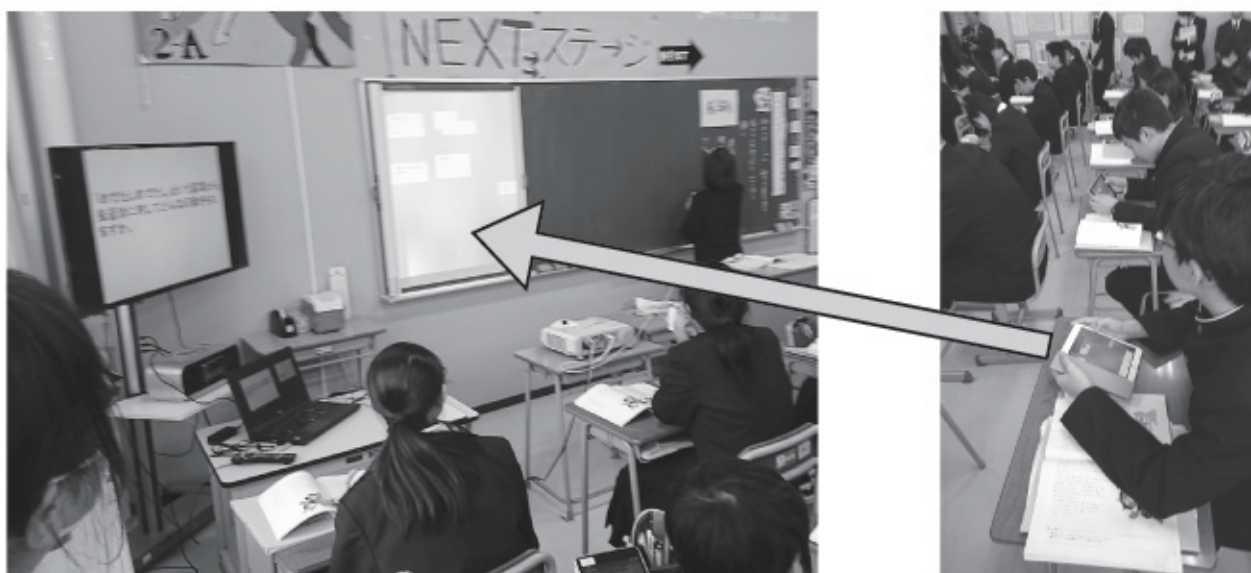
多様な手段で 説明する

・多様な表現方法の提示

図や写真等の利用素材の工夫や、ICTの活用、発表方法（レポート、ポスター、プレゼンテーションソフト等）を目的に合わせて用いるとよいでしょう。また、個々の子どもが、目的に合わせて表現方法を選択できるよう、多様な活用例を示すことが大切です。

・他者へ説明することの意義の理解

知識の再構成、学級全体での情報の共有等、活動の意義を明確にしましょう。「振り返り」をしたり、相互に評価したりする場を設定することが重要です。



安平町立早来中学校

無料アプリケーション Padlet（パドレット）を活用したワークシートのシェアリング。授業者の発問に対して生徒は自分のタブレットから意見を投稿できます。個人がタブレット機器に入力した意見がすぐにスクリーン上に反映されます。授業者は生徒全員の意見をスクリーンに集め、皆でシェアリングすることができます。デジタル機器に親和性が高い生徒が多く、ワークシートに書くよりも活発な意見交換ができています。

<深い学びについて>

「深い学び」について新学習指導要領には以下のように示されています。

「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが、「見方・考え方」である。各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い学びにつなげることが重要である。

なお、各教科等の解説に示されている各教科等の特質に応じた「見方・考え方」は、当該教科等における主要なものであり、「深い学び」の視点からは、それらの「見方・考え方」を踏まえながら、学習内容等に応じて柔軟に考えることが重要である。

また、思考・判断・表現の過程には

- ・ 物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
- ・ 精査した情報を基に自分の考えを形成し表現したり、目的や状況等に応じて互いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
- ・ 思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

の大きく三つがあると考えられる。

各教科等の特質に応じて、こうした学習の過程を重視して、具体的な学習内容、単元や題材の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要である。 （新学習指導要領解説 総則編より）

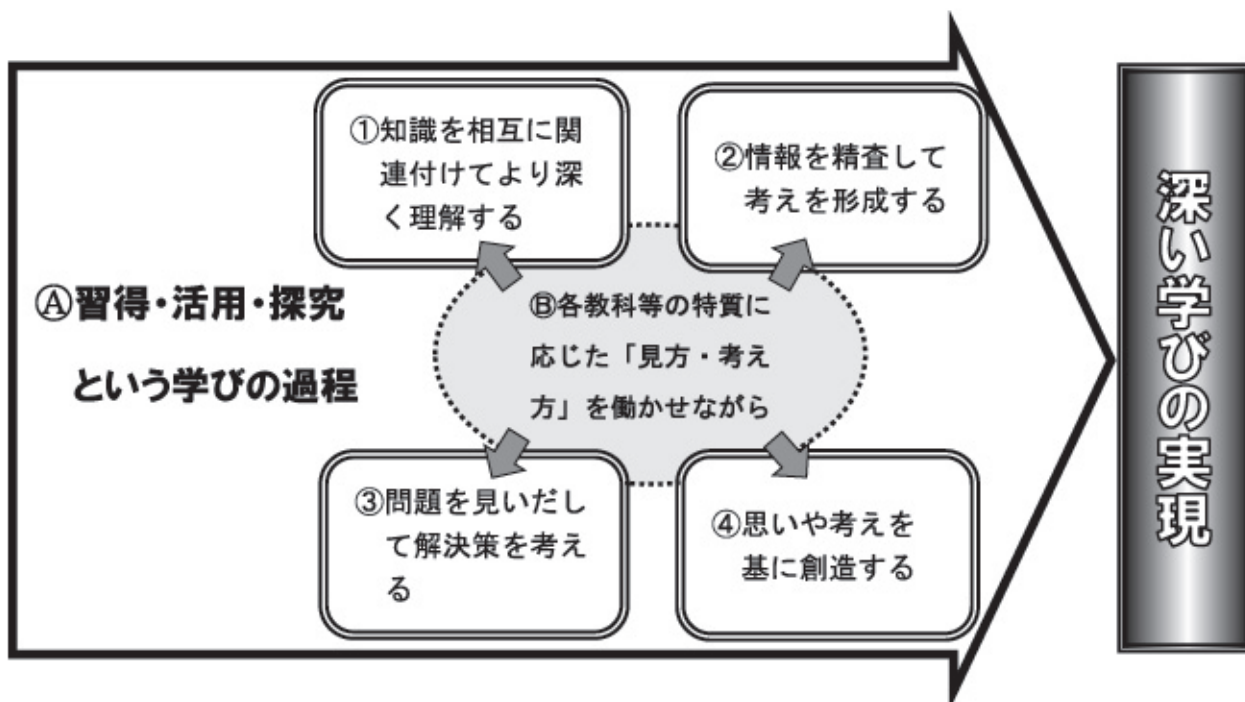
「深い学び」は「主体的な学び」、「対話的な学び」と互いに大きく関わっていると考えられます。例えば、対話的な学びを通して深い学びが実現したり、深い学びが主体的な学びにつながったりすることがあるでしょう。このように「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点は連動しており、子どもの学びの過程として一体となって実現されるものであると考えられます。しかしながら授業改善の視点としては、これら三つの視点を一体的に考えるのではなく、それぞれの視点から授業を捉えるようにする方が、改善の方向性を探りやすくなります。また、1単位時間の中で三つの学びの実現に固執する必要はありません。単元や題材のまとまりの中で、子どもたちの学びがこれら三つの視点を満たすものになっているか、それぞれの視点の内容と相互のバランスに配慮しながら学びの状況を把握し改善していくことが重要となります。

「深い学び」の視点は、以下のようにも新学習指導要領に示されています。

④習得・活用・探究という学びの過程の中で、⑧各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、①知識を相互に関連付けてより深く理解したり、②情報を精査して考えを形成したり、③問題を見いだして解決策を考えたり、④思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」ができているかという視点。

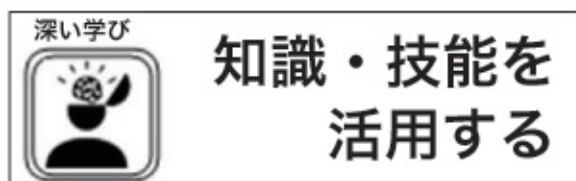
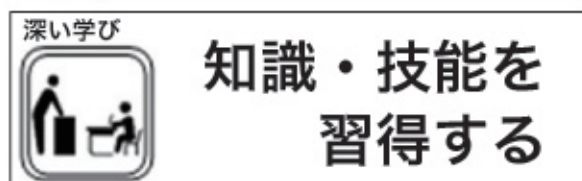
※下線及び番号は胆振教育研究所記載

この「深い学び」の視点を図式化すると以下のようにになると本研究所で考えました。



そこで、「深い学び」について上図における①～④と実現したい子どもの姿カードを結び付けて述べていきます。

①知識を相互に関連付けてより深く理解する



これまでに身に付けていた知識・技能を存分に活用・発揮させ、その結果、知識・技能が相互に関連付けられたり組み合わせられたりして、知識・技能を構造化させていきます。その結果、知識・技能はより深く理解され、異なる状況でも活用できるなど、生きて働くものとして形成されるようにすることが大切です。

そのためには、生活や社会とのつながりや既習事項との関連付けなどを行い、子どもの疑問をもとにした問いを作成したり、身に付けた資質・能力を活用・発揮させる学習活動を設定したりすることが重要です。

②情報を精査して考えを形成する

深い学び



自分の考えを 形成する

情報を精査して考えを形成するための一つの方策として、ペアやグループ交流で相手に自分の考えを具体的に伝える場面で、何を基に考えたのか、どこから読み取ったのかなど、根拠となる文章や資料を示すことを意識させることが考えられます。また、「なるほど」や「そうか」などといった視点で友達の考えを聞き、共感や納得した部分をメモに取りながら自分の考えに付け加えさせるなどの取組も「深い学び」につながります。



厚真町立厚真中央小学校
5年国語科「天気を予想する」
グループ交流をしています。

③問題を見いだして解決策を考える

深い学び



思考して 問い続ける

深い学び



知識や技能を 概念化する

問題を見いだして解決策を考えるためには、学習の単元構成が子どもにとって意味のある一連の問題解決のまとまりになっていることが重要です。また、子どもが「解決したい」「知りたい」という思いをもてるよう、課題の内容や提示の仕方を工夫する必要があります。そのために単元・題材で育成したい資質・能力は何かを授業者が明確にもつことが大切です。

④思いや考えを基に創造する

深い学び



自分の思いや考 えと結び付ける

深い学び



新たなものを 創り上げる

思いや考えを基に創造するためには、可視化した互いの考えを、明確な視点の基で、分類、比較、関係付けをしながら話し合いをしたり、友達と考えを交流する中で、自分の考えを違う視点で捉え直したり、考えの更新や再構成を図れるようにしたりすることが大切です。また、子どもの考えに価値付けをすることで、新たな視点からの気づきを促したり、子どもが学びのよさを実感したりできるようにすることも重要です。

2 主体的・対話的で深い学びに向けたカリキュラム・マネジメントについて

平成28年中央教育審議会答申で、『アクティブ・ラーニング』と『カリキュラム・マネジメント』は、教育課程を軸にしながら、授業、学校の組織や経営の改善などを行うためのものであり、両者は一体と捉えてこそ学校全体の機能を強化することができる」と述べられています。

資質・能力は一度の授業で育成することは難しいので、カリキュラム・マネジメントを充実させながら主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を行っていくことが重要視されます。

(1) カリキュラム・マネジメントとは？

カリキュラム・マネジメントは新学習指導要領総則に以下のように示されています。

各学校においては、**児童(生徒)や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと**などを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(以下「カリキュラム・マネジメント」という。)に努めるものとする。 ※ ()内は中学校学習指導要領

(2) カリキュラム・マネジメントの三つの側面

新学習指導要領総則に示されているように、カリキュラム・マネジメントには三つの側面があります。

カリキュラム・デザイン

各教科等の教育内容を相互の関係でとらえ、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列する。

PDCAサイクル

教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成・実施・評価して改善する。

内外リソースの活用

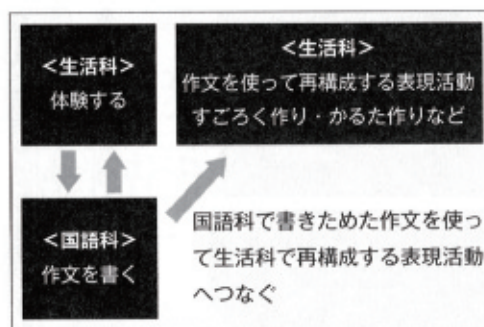
教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせる。

※本研究においては、カリキュラム・デザインと内外リソースの活用に焦点を当てて述べます。

＜教科等横断的な視点で組み立てた授業実践例＞

・国語科と生活科を合科的に扱い、言語と体験をつなぐ

生活科で体験したことを国語科の書くことの学習で書き表し、それを再び生活科につないで活用します。生活科の「体験」と国語科の「書くこと」をつなぐことで、文章として蓄積し、それを活用して活動を展開することで、新たなものをつくり出すことができます。



田村 学著 カリキュラム・マネジメント入門より引用

・教科学習と学校行事等を組み合わせ、目的意識をもって取り組む

6年国語科「町のよさを伝えるパンフレットをつくろう」でパンフレットを作成し、修学旅行先でパンフレットの配布を行います。修学旅行先で自分の町を紹介するという目的意識をもつことで、主体的に取り組む姿勢が生まれます。自分の町のことを知らない人でも分かりやすいよう、見出しの書き方や記述の仕方などを工夫しています。



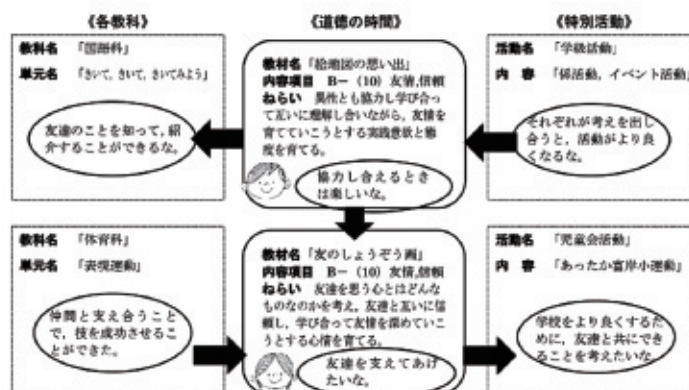
国語科で作成した自分の町を紹介するパンフレット



修学旅行先でパンフレットの説明をしているところ
白老町立萩野小学校の実践例

・道徳科における各教科等との関連的指導の工夫

道徳科においても各教科等との関連を図るなど、指導の内容及び時期を配慮して年間指導計画に位置付け、具体的な関連の見通しをもつことが重要になります。



5年道徳科「友達と支えあう」 登別市立富岸小学校の実践例

<教科等横断的な視点をもつためのカリキュラム・デザインについて>

主体的・対話的で深い学びを実現させるためには、各教科等の学びをつなげることが大切です。カリキュラム・デザインについて、田村学氏（元文部科学省初等中等教育局視学官）は大きく「全体計画の作成」「単元配列表の作成」「単元計画の作成」の三つの階層が考えられると述べています。

各学年のそれぞれの教科等では、年間指導計画を立てています。それらを統合して1枚にし、年間の教育活動を俯瞰できるようにしたものが単元配列表です。単元配列表を作成することで各教科等の横断的な視点を可視化することができます。そして、図2のような視覚的カリキュラム表をもとに、各教科等がいつ、どのようにつながっているかを分かりやすくすることで、教科等横断的な視点で単元を組み立てられます。また、道徳教育における全体計画別業もカリキュラム・デザインの意味合いを併せもっています。是非、今一度各教科等のつながりを意識して授業に臨んでいただければと思います。

カリキュラム・デザインについては、本研究所が平成29年度に発行した研究紀要222号調査課題研究「カリキュラム・マネジメントについてのアンケート」に詳しく掲載しておりますので、そちらもぜひご覧ください。

図1 単元配列表を作成するイメージ



図2 視覚的カリキュラム表

	4月	5月	6月	7月	8月
行事等	入学式	運動会	夏休み	新入学式	終業式
言語活動	4月 国語活動 (全校スキル学習)	5月 児童劇会 (遠足帰り演習)	6月 経済/経済活動 (3年) 児童劇会 (4年)	7月 経済/経済活動 (2年)	8月 全校スキル学習 (経済/経済活動)
国語	「話し言葉の活動をしよう」として、読むことに書く	「話し言葉の活動をしよう」として、読むことに書く	「話し言葉の活動をしよう」として、読むことに書く	「話し言葉の活動をしよう」として、読むことに書く	「話し言葉の活動をしよう」として、読むことに書く
総合	「各立の目標を掲げよう」	「各立の目標を掲げよう」	「各立の目標を掲げよう」	「各立の目標を掲げよう」	「各立の目標を掲げよう」
社会	わたしの住むまちとどんなまち 11	わたしたちの物の様子 11	わたしたちの物の様子 11	わたしたちの物の様子 11	わたしたちの物の様子 11
算数	かけ算	かけ算	かけ算	かけ算	かけ算
学級活動	「各立を決めよう」	「各立を決めよう」	「各立を決めよう」	「各立を決めよう」	「各立を決めよう」
音楽	「明るい歌声をひびかせよう」	「明るい歌声をひびかせよう」	「明るい歌声をひびかせよう」	「明るい歌声をひびかせよう」	「明るい歌声をひびかせよう」
道徳	「いじめをなくしよう」	「いじめをなくしよう」	「いじめをなくしよう」	「いじめをなくしよう」	「いじめをなくしよう」

田村 学著 カリキュラム・マネジメント入門より引用

◆主体的・対話的で深い学びの実現を目指した内外リソースの活用

教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせる。

新学習指導要領解説 総則編には、家庭や地域社会との関係づくりに関わるカリキュラム・マネジメントについて以下のように示されています。

2 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

教育課程の編成及び実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ア 学校がその目的を達成するため、学校や地域の実態等に応じ、教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、家庭や地域社会との連携及び協働を深めること。また、高齢者や異年齢の子供など、地域における世代を越えた交流の機会を設けること。

イ 他の小（中）学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、中（小）学校、高等学校、特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすること。 （新学習指導要領解説 総則編より引用）

平成27年の中央教育審議会で出された意見の中には、「地域創生の観点からも、学校では地域に目を向けた教育、地域で生きていく確信を持つ教育・学習を行うことが必要であり、地域は課題解決型学習やアクティブ・ラーニングの場となる」という考えも出されています。現在でも、家庭や地域社会との連携及び協働が行われている学校が多いかと思いますが、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、さらなる連携及び協働を深めていくことが大切です。



伊達市内23事業所の協力のもと行われた2年「職場体験学習」 伊達市立光陵中学校の実践例

3 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組について（Q&A形式）

Q 毎回の授業で主体的・対話的で深い学びを実現させなければいけないのでしょうか。

新学習指導要領解説 総則編には、下記のように記載されています。

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくり出すために、児童（生徒）が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが重要となる。すなわち、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは単元や題材など内容のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他ならない。

※（ ）内は中学校学習指導要領

（新学習指導要領解説 総則編より引用）

つまり、1単位時間の中で主体的・対話的で深い学びの要素を全て取り入れることは困難であり、必ずしも適切であるとは言えません。

大切なことは、単元や題材のまとまりの中で、

- ① 主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする場面
- ② 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面
- ③ 児童生徒が考える場面と教師が教える場面の組立

といった要素を適切かつ効果的に配置していくことです。

すなわち、単元デザインをどう構成するかが重要なポイントとなってきます。

Q 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善がスタートしますが、今まで行ってきた授業実践は、今後も活用できるのでしょうか。

新学習指導要領解説 総則編には、下記のように記載されています。

児童（生徒）に求められる資質・能力を育成することを目指した授業改善の取組は、これまで多くの実践が重ねられており、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが、そうした着実に取り組まれてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならないことであると捉える必要はない。また、授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、児童（生徒）に求められる資質・能力を育むために、児童（生徒）や学校の実態、指導の内容に応じ、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点から授業改善を図ることが重要である。

※（ ）内は中学校学習指導要領
（新学習指導要領解説 総則編より引用）

「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の授業改善の視点は全く新しいものではありません。これまでの学校教育の授業改善の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していく視点として位置付けることが重要です。また、授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、児童生徒に求められる資質・能力を育むために、児童生徒や学校の実態、指導の内容に応じ、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点から授業改善を図ることが重要です。

Q 小規模校等、児童生徒が少人数の場合、どのように主体的・対話的で深い学びを行ったらいでしょうか。

学級の児童生徒数が少ない小規模校にとっては、特に対話的な学びをどう行えばよいかという課題があります。

複式学級を擁する白老町立虎杖小学校では、この課題に対し、学習リーダーガイドを作成し、基本的に子どもたちが学習を進めるスタイルで学ぶことで、子どもたち自らが主体的・対話的で深い学びを実現させようと取り組んでいます。

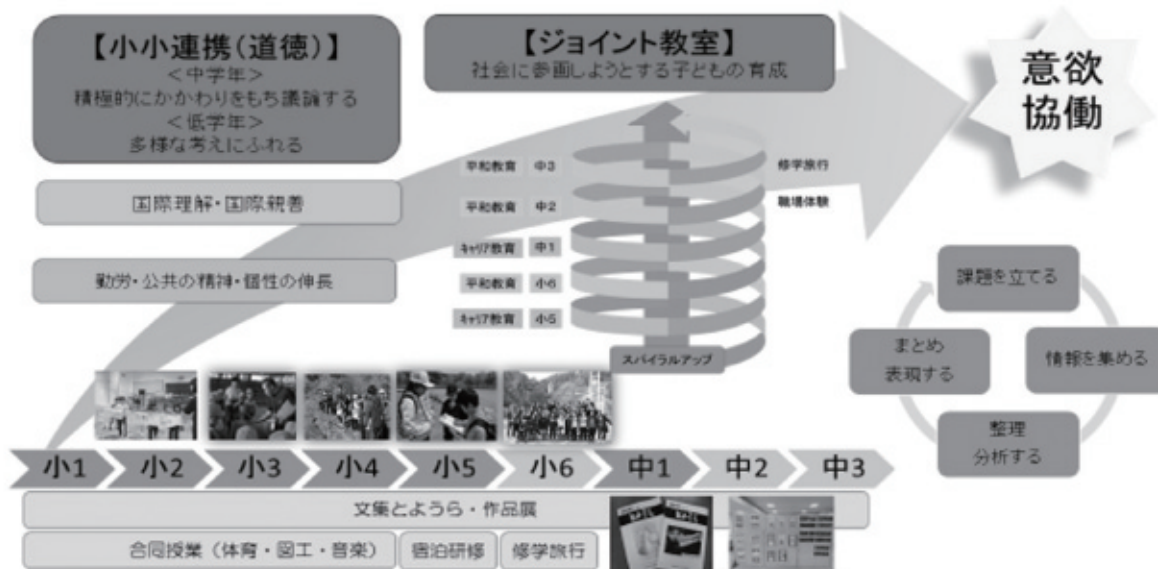
また、豊浦町では、近隣小学校同士の合同授業や小中学校が総合的な学習の時間を活用した小中連携のジョイント教室などの取組を行っています。

さらに同学年の児童による対話が難しければ、他学年児童との活動を設けたり、教師や地域住民との話し合いを設けたりするなど、様々な形の対話を工夫することが大切です。

学習リーダーガイド

学年	活動	内容	実施
1	つかむ	1. 学習課題を確かめる。 ○今日の課題は、 です。 2. 学習の手順を確かめる。 ○次の段階では、どんな学習をすればよいのか、先生の指し示を聞きま	○
2	かんがえ	3. 一人学習に取り組み。 ○これは一人学習を始めます。○○について考えてください。 4. グループで話し合う。 ○学び合いを始めます。考えを発表してください。	×
3	まとめる	5. 話し合ったことを発表する。 ○グループで話し合ったことを発表してください。 6. 学習課題を解決する。 ○そろそろまとめを発表しよう。まとめを聞いてください。 ○まとめた発表してください。	○
4	ひかる	7. 演習問題などに取り組み。 ○考えてください。 ○考えをわかせしめよう。 ○発表してください。 8. 学習の振り返りと次の学習を確認。 ○振り返りを書きましよう。 ○発表してください。	×

白老町立虎杖小学校
複式学級において学習リーダーガイドを活用した授業実践の工夫をしています。



豊浦町立豊浦小学校、大岸小学校、礼文華小学校、豊浦中学校による小小連携・小中連携教育
小規模校がある小学校との合同授業を行う小小連携や総合的な学習を通して小中学生と一緒に学ぶジョイント教室などを行っています。

Ⅲ 今後の方向性

◆今年度の研究を振り返って

今年度は、研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」の2年次として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた具体的な取組等についてまとめてきました。今年度の成果と課題には、以下の点が挙げられます。

成果

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な実践についてまとめることができた。これにより、平成28年度の本教育研究所の調査課題研究「アクティブ・ラーニングの取組アンケート」から見られた3つの課題（※）のうち、「アクティブ・ラーニングの実践的なおさえを具体化して実践していくこと」の改善に向けた資料を提供することができた。
- ・胆振管内の小中学校の実践を紹介することができた。

課題

- ・平成28年度の3つの課題（※）のうち「実践している教科・領域に差があること」の改善に向けて具体的な実践事例を取り上げる必要がある。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、単元や題材など内容やまとまりをどのように構成するかという、単元デザインについての研鑽が必要である。
- ・「深い学び」の実践については、更なる研鑽の必要がある。

（※）「アクティブ・ラーニングの取組アンケート」から見られた3つの課題（P1参照）

- 実践している教科・領域に差があること。
- 教員間や学校間でアクティブ・ラーニングに対する共通認識を図ること。
- アクティブ・ラーニングの実践的なおさえを具体化して実践していくこと。

次年度以降については、この課題に対し、各学校での具体的な実践例を交えながら、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した単元デザインづくり等について研究を深めていきます。

◆資料 各教科等の「見方・考え方」一覧

教科等	見方・考え方	
国語 「言葉による 見方・考え方」	【小・中学校】 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。	
社会 「社会的な 見方・考え方」	【小学校】 <社会的事象の見方・考え方> 社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。	【中学校】 <社会的事象の地理的な見方・考え方（地理的分野）> 社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。 <社会的事象の歴史的な見方・考え方（歴史的分野）> 社会的事象を、時期、推移などに注目して捉え、類似や差違などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること。 <現代社会の見方・考え方（公民的分野）> 社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。
算数・数学 「数学的な 見方・考え方」	【小学校】 事象を数量や図形及びそれらの関係などに注目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。	【中学校】 事象を数量や図形及びそれらの関係などに注目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。
理科 「理科の 見方・考え方」	【小・中学校】 ○見方 <「エネルギー」を柱とする領域 > 自然の事物・現象を主として量的・関係的な視点で捉えること。 <「粒子」を柱とする領域 > 自然の事物・現象を主として質的・実体的な視点で捉えること。 <「生命」を柱とする領域 > 自然の事物・現象を主として多様性と共通性の視点で捉えること。 <「地球」を柱とする領域 > 自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点で捉えること。 ○考え方 探究の過程を通じた学習活動の中で、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて、事象の中に何らかの関連性や規則性、因果関係等が見いだせるかなどについて考えること。	
生活 「身近な生活に関わる 見方・考え方」	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする。	

音楽 「音楽的な 見方・考え方」	【小学校】 音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること。	【中学校】 音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること。
図画工作、美術 「造形的な 見方・考え方」	【小学校】 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。	【中学校】 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。
家庭、技術・家庭 (家庭分野) 「家庭の営みに係る 見方・考え方」	【小・中学校】 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。	
技術・家庭(技術分野) 「技術の見方・考え方」	生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること。	
体育、保健体育 「体育の 見方・考え方」	【小・中学校】 運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。	
体育、保健体育 「保健の 見方・考え方」	【小・中学校】 個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。	
外国語活動、外国語 「外国語によるコミュニケーションにおける 見方・考え方」	【小・中学校】 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。	
特別の教科 道徳 「道徳科における 見方・考え方」	【小学校】 様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考えること。	【中学校】 様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え、人間としての生き方について考えること。
特別活動 「集団や社会の形成者としての 見方・考え方」	【小・中学校】 各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結びつけること。	
総合的な学習の時間 「探究的な 見方・考え方」	【小・中学校】 各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けること。	

◆参考資料一覧

- ・学習指導要領（平成 29 年告示）、学習指導要領解説（文部科学省）
- ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（文部科学省）
- ・教育課程企画特別部会 論点整理（文部科学省）
- ・主体的・対話的で深い学び実践ハンドブック（新潟県立教育センター）
- ・研修プランシリーズ「主体的・対話的で深い学びの3つの視点を養う」（NITS）
- ・アクティブ・ラーニングとカリキュラム・マネジメントをつなぐ（NITS）
- ・カリキュラム・マネジメント入門（田村 学著）
- ・思考ツール <実践編>（田村 学著）
- ・深い学び（田村 学著）
- ・平成 28 年度 研究紀要（第 219 号）調査課題研究（胆振教育研究所）
- ・初等教育資料 No. 960
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善【理論編】（栃木県総合教育センター）

◆研究・執筆

役職名	氏名	所属学校	職名
所 長	土 井 嘉 啓	登別市立若草小学校	校長
副 所 長	立 花 和 実	伊達市立伊達中学校	校長
事 務 局 長	高 橋 賢 治	登別市立富岸小学校	主幹教諭
事務局次長	村 井 淳 一	伊達市立伊達中学校	主幹教諭
所 員	本 所 章 宏	伊達市立伊達小学校	主幹教諭
所 員	武 田 成 永	登別市立緑陽中学校	主幹教諭
所 員	牛 島 夏 陽	伊達市立東小学校	教諭
所 員	宮 崎 雄 太 朗	伊達市立光陵中学校	教諭
所 員	石 井 芳 政	登別市立若草小学校	教諭
所 員	藤 田 宣 夫	白老町立萩野小学校	教諭
事 務 職 員	水 留 恵 美 子	胆振教育研究所	

◆あしがき

2020年がスタートし、いよいよ本年は東京2020オリンピック・パラリンピック(以下 東京2020大会)が開催されます。これまでも様々な競技がクローズアップされてきましたが、今後も開催に向けてさらに熱気が高まっていくことと思います。

東京2020大会では、東京1964大会に匹敵する歴史的な節目とするために、以下の大会ビジョンが掲げられています。

スポーツには 世界と未来を変える力がある

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)」、
「一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、
「そして、未来につなげよう(未来への継承)」
を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

「全員が自己ベスト」、「多様性と調和」、「未来への継承」という3つの基本コンセプトをもとに開催される東京2020大会。この大会ビジョンを初めて目にしたとき、私自身非常に胸が高鳴りました。今、この時に、東京2020大会を目指しひたむきに努力を重ねている人が日本全国に数多くいます。大会に出場する選手はもちろんのこと、運営に携わる方々など多岐にわたることでしょう。大会に携わる方々に熱いエールを送るとともに、私自身この大会ビジョンを胸に、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりを通し、子どもたちの未来を切り拓いていくための資質・能力を身に付けさせていきたいと感じました。

今年度、本研究所では「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」を研究主題に掲げ、日常の具体的な授業改善の一助としていただきたいとの思いで理論としてまとめました。本研究が胆振管内の教職員の皆様において、校内研修や日常の教育現場でご活用いただければ幸いです。次年度も主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりに関して具体的な取組や実践例等をまとめ、情報発信していきたいと考えております。今後とも、胆振教育研究所に対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

担当所員 藤田 宣夫

令和元年度 研究紀要 第229号

《研究主題》

主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり
～2年次～

発行年月日 令和2年3月17日

発行 胆振教育研究所

代表者 所長 土井嘉啓

印刷 デザインワーク・エーチ